



サービス プロファイルの設定

- [サービス プロファイルの概要, 1 ページ](#)
- [サービス プロファイルの設定タスク フロー, 2 ページ](#)

サービス プロファイルの概要

サービス プロファイルにより、Unified Communications (UC) サービスの共通設定で構成されるプロファイルを作成できます。サービス プロファイルをエンドユーザに適用し、サービス プロファイルにある UC サービスの構成時の設定をそのエンドユーザに割り当てることができます。企業内の異なるユーザグループごとに異なるサービスを設定でき、その結果、各グループのユーザが、仕事に合わせて設定された適切なサービスを利用できます。

サービス プロファイルは、次の UC サービスの構成時の設定で構成されます。

- [ボイスメール (Voicemail)]
- メールストア (Mailstore)
- [会議 (Conferencing)]
- [ディレクトリ (Directory)]
- [IM and Presence]
- [CTI]
- ビデオ会議サービス

エンドユーザへのサービス プロファイルの適用

エンドユーザにサービス プロファイルを適用するには、次の方法を使用します。

- LDAP同期されたユーザ向け：LDAPディレクトリからエンドユーザをインポートした場合、サービス プロファイルを機能グループ テンプレートに割り当てることができ、その機能グループ テンプレートをエンドユーザに適用できます。

- アクティブローカルユーザ（非LDAPユーザなど）向け：エンドユーザの設定で、サービスプロファイルを個別のエンドユーザに割り当てることができます。また、サービスプロファイルを多くのエンドユーザに一度に割り当てるには、一括管理ツールを利用できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

サービスプロファイルの設定タスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<p>このサービスプロファイルに割り当てる次のユニファイドコミュニケーション（UC）サービスを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ボイスメールサービスの追加, (2 ページ) • メールストアサービスの追加, (3 ページ) • 会議サービスの追加, (4 ページ) • ディレクトリサービスの追加, (6 ページ) • IM and Presence サービスの追加, (7 ページ) • CTI サービスの追加, (8 ページ) • ビデオ会議のスケジューリングサービスの追加, (8 ページ) 	サービスプロファイル用に設定する UC サービス設定を実行します。
ステップ2	サービスプロファイルの設定, (9 ページ)	このサービスプロファイルに適用する UC サービスを示すように、ユーザのサービスプロファイルを設定します。

ボイスメールサービスの追加

システムにボイスメールサービスを追加します。複数のボイスメールサービスを追加してから、サービスプロファイルに追加するサービスを選択できます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[ユーザの管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Service)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [UC サービス タイプ (UC Service Type)] ドロップダウン リスト ボックスから [ボイスメール (Voicemail)] を選択します。
- ステップ 4 [製品タイプ (Product Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Unity] または [Unity Connection] を選択します。
- ステップ 5 [名前 (Name)] にボイスメール サービスの名前を入力します。
- ステップ 6 サービスを区別しやすくするための [説明 (Description)] を入力します。
- ステップ 7 [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドに、ボイスメール サービスをホストするサーバのホスト名、IP アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。
- ステップ 8 [ポート (Port)] フィールドに、ボイスメール サービスに接続するポートを入力します。デフォルトポートは 443 です。
- ステップ 9 [プロトコル (Protocol)] フィールドに、ボイスメッセージをルーティングするために使用するプロトコルを入力します。使用可能なオプションは、[HTTP] と [HTTPS] のみです。
(注) Cisco Unity サーバおよび Cisco Unity Connection サーバのボイスメール転送プロトコルには、[HTTPS] を使用することを推奨します。ネットワーク設定で [HTTPS] がサポートされない場合に限り [HTTP] に変更してください。
- ステップ 10 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[メールストアサービスの追加, \(3 ページ\)](#)

メールストアサービスの追加

システムにメールストア サービスを追加します。Cisco Jabber Clients は、ビジュアル ボイスメールの機能にメールストア サービスを使用します。



- (注) Cisco Unity では、Microsoft Exchange サーバでのメッセージ保存用にサブスクライバメールボックスが作成されます。

通常、Cisco Unity Connection はメールストア サービスを提供し、同じサーバ上でメールストア サービスをホストします。

はじめる前に

[ボイスメール サービスの追加, \(2 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[ユーザの管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Service)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [UC サービスの種類 (UC Service Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[メールストア (Mailstore)] を選択します。
- ステップ 4** メールストア サービスの名前を [名前 (Name)] に入力します。
- ステップ 5** メールストア サービスの説明を [説明 (Description)] に入力します。
- ステップ 6** [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドに、メールストアをホストするサーバの、ホスト名、IP アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。
- ステップ 7** [ポート (Port)] フィールドに、メールストア サービスで利用可能なポート番号と一致する 1 ~ 65535 の範囲のポート番号を入力します。メールストアのデフォルトのポート番号は 143 です。
(注) Cisco Unity Connection を使用したセキュア ボイスメッセージングには、ポート番号 7993 を使用してください。
- ステップ 8** [プロトコル (Protocol)] フィールドに、ボイスメールメッセージのルーティングに使用するプロトコル、TCP (デフォルト)、TLS、UDP、または SSL を入力します。
(注) Cisco Unity Connection を使用したセキュア メッセージングには、TLS を使用してください。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[会議サービスの追加, \(4 ページ\)](#)

会議サービスの追加

システムに会議サービスを追加します。

はじめる前に

[メールストア サービスの追加, \(3 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[ユーザの管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Service)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [UC サービス タイプ (UC Service Type)] ドロップダウン リスト ボックスから [会議 (Conferencing)] を選択します。
- ステップ 4** [製品タイプ (Product Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、会議に使用する製品を選択します。
- MeetingPlace Classic
 - MeetingPlace Express
 - WebEx
- ステップ 5** [名前 (Name)] に会議サービスの名前を入力します。
- ステップ 6** [説明 (Description)] に会議サービスの説明を入力します。
- ステップ 7** [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドに、会議サービスをホストするサーバのホスト名、IP アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。
- ステップ 8** [ポート (Port)] フィールドに、会議サービスで使用可能なポートと一致するポート値を入力します。推奨される値を次に示します。
- 80 (デフォルト設定) : HTTP にはこのポートを使用します。
 - 443 : HTTPS にはこのポートを使用します。
- ステップ 9** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、エンドポイントがこのサービスに連絡するとき使用するプロトコルを選択します。
- TCP (デフォルト設定)
 - UDP
 - SSL
 - TLS
- (注) Cisco Unity Connection を使用したセキュア メッセージングの場合は、TLS を使用してください。
- ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[ディレクトリ サービスの追加, \(6 ページ\)](#)

ディレクトリ サービスの追加

ディレクトリ検索で、Cisco Unified Communications Manager に外部の LDAP ディレクトリを参照させる場合は、ディレクトリ サービスをシステムに追加します。

はじめる前に

[会議サービスの追加, \(4 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[ユーザの管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Service)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [UC サービスの種類 (UC Service Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[ディレクトリ (Directory)] を選択します。
- ステップ 4** [製品のタイプ (Product Type)] フィールドから、次のいずれかを選択します。
- [ディレクトリ (Directory)] : クライアントが UDS を使用し Cisco Unified Communications Manager データベースに接続して、ディレクトリ検索をする場合は、このオプションを選択します。
 - [拡張ディレクトリ (Enhanced Directory)] : クライアントが外部の LDAP ディレクトリに接続して、ディレクトリ検索をする場合は、このオプションを選択します。
- ステップ 5** ディレクトリ サービスの名前を [名前 (Name)] に入力します。
- ステップ 6** ディレクトリ サービスの説明を [説明 (Description)] に入力します。
- ステップ 7** [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドに、クライアントがディレクトリ検索に利用するディレクトリ サービスをホストするサーバの、ホスト名、IP アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。
- (注) 外部の LDAP ディレクトリをディレクトリ検索に使用している場合は、その LDAP ディレクトリのホスト名、IP アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。
- ステップ 8** [ポート (Port)] フィールドに、ディレクトリ サービスで利用可能なポート番号と一致するポート番号を入力します。デフォルトのポート値は 389 です。また、ポート 636、3628、3629 は、外部の LDAP ディレクトリに接続できます。
- ステップ 9** [プロトコル (Protocol)] フィールドに、ディレクトリ サービスとエンドポイント間の通信のルーティングに使用するプロトコルを入力します。次のオプションを使用できます。
- TCP (デフォルト設定)
 - UDP

- TLS

ステップ 10 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[IM and Presence サービスの追加, \(7 ページ\)](#)

IM and Presence サービスの追加

システムに IM and Presence サービスを追加します。

はじめる前に

[ディレクトリ サービスの追加, \(6 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Service)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [UC サービス タイプ (UC Service Type)] ドロップダウンリスト ボックスから、IM and Presence を選択します。
- ステップ 4** [製品タイプ (Product Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
- Unified CM (IM and Presence)
 - WebEx (IM and Presence)
- ステップ 5** [名前 (Name)] に IM and Presence サービスの名前を入力します。
- ステップ 6** [説明 (Description)] に IM and Presence サービスの説明を入力します。
- ステップ 7** [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドに、IM and Presence サービスをホストするサーバのホスト名、IP アドレス、または DNS SRV を入力します。
ヒント ユーザに適した IM and Presence サービスをクライアントが見つけやすい DNS SRV を推奨します。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[CTI サービスの追加, \(8 ページ\)](#)

CTI サービスの追加

システムに CTI サービスを追加します。

はじめる前に

[IM and Presence サービスの追加, \(7 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[ユーザの管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Service)] を選択します。
 - ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - ステップ 3 [UC サービス タイプ (UC Service Type)] ドロップダウン リスト ボックスから [CTI] を選択します。
 - ステップ 4 [名前 (Name)] に CTI サービスの名前を入力します。
 - ステップ 5 [説明 (Description)] に CTI サービスの説明を入力します。
 - ステップ 6 [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドに、CTI サービスをホストするサーバのホスト名、IP アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。
 - ステップ 7 [ポート (Port)] フィールドに CTI サービスのポート番号を入力します。デフォルトポートは 2748 です。
 - ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[ビデオ会議のスケジューリング サービスの追加, \(8 ページ\)](#)

ビデオ会議のスケジューリング サービスの追加

TelePresence Management System に、ビデオ会議をスケジューリングするポータルを提供するビデオ会議スケジューリング サービスを追加します。

はじめる前に

[CTI サービスの追加, \(8 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[ユーザの管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Service)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [名前 (Name)] にサービスの名前を入力します。
- ステップ 4 [説明 (Description)] にサービスの説明を入力します。
- ステップ 5 [IP アドレス/ホスト名 (IP Address/Hostname)] フィールドに、ビデオ会議スケジューリング サービスをホストするサーバのホスト名、IP アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。
- ステップ 6 [ポート (Port)] フィールドに、ビデオ会議スケジューリング サービスで使用可能なポートと一致するポート値を入力します。利用可能なポートは次のとおりです。
 - 80 (デフォルト) または 8080 : これらのポートは HTTP に使用します。
 - 443 または 8443 : これらのポートは HTTPS に使用します。
- ステップ 7 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストボックスから、ビデオ会議スケジューリング サービスとの通信用に、次のいずれかのプロトコルを選択します。
 - HTTP
 - HTTPS
- ステップ 8 [ポータルの URL (Portal URL)] フィールドに、TelePresence Management System を指定する URL を入力します。
- ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[サービス プロファイルの設定, \(9 ページ\)](#)

サービス プロファイルの設定

ユーザに割り当てられるサービス プロファイルを設定するには、次の手順を実行します。サービス プロファイルには、そのサービス用に設定されている適切なサーバが指定されています。たとえば、サービス プロファイルで、ボイスメール サービスにプライマリ サーバ、セカンダリ サーバおよび第 3 サーバ (該当する場合) を指定します。

はじめる前に

サービス プロファイルを設定する前に Unified Communications (UC) サービスを設定する必要があります。次の UC サービスのいずれかを設定できます。

- [ボイスメール サービスの追加, \(2 ページ\)](#)

- メールストア サービスの追加, (3 ページ)
- 会議サービスの追加, (4 ページ)
- ディレクトリ サービスの追加, (6 ページ)
- IM and Presence サービスの追加, (7 ページ)
- CTI サービスの追加, (8 ページ)
- ビデオ会議のスケジューリング サービスの追加, (8 ページ)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [サービス プロファイル (Service Profile)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [サービス プロファイルの設定 (Service Profile Configuration)] ウィンドウで各フィールドに入力します。フィールドの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-